



出雲大社 函館教會 社頭だより

平成二十五年秋季号
平成二十五年十月発行
出雲大社 函館教會
函館市高松町三二七―三
電話 五七―四六七七

◇◇設立五十周年記念奉祝大祭社頭講話―要旨◇◇

『感謝』有難き事

今年には六十年に一度という「出雲大社」の遷宮と、二十年に一度という「伊勢神宮」の式年遷宮が重なるという大変お目出度い節目の年に当たりますが、出雲大社函館のおしえのにわでは、この平成二十五年十月で設立五十周年を迎えることができました。こうして皆様方とご一緒にこの節目の設立記念奉祝秋季例大祭を齋行できましたことは、大変有難く、役員一同、心から感謝申し上げます。

当函館のおしえのにわは、出雲大社の御祭神「大國主大神」様の御神徳をひとりでも多くの方々に弘布すべく、島根県出雲市大社町御鎮座の宗祠「出雲大社」より、昭和三十八年十月二十日に講社としておしえのにわの設立許可を賜り講社

分霊を奉齋し、さらに平成十一年九月十二日には教會(分社)に昇格し教會分霊を奉齋、当地函館の御神殿に宗祠「出雲大社」国宝御本殿より、時の第八十三代出雲國造・宮司千家尊祀公(前國造・宮司)の御親祭を賜り、大神様の御分霊を勧請し、御鎮座されている御社おしえのにわであります。

この五十年の間、函館の出雲大社の大國主大神様「だいきくさま」にお仕え申し上げた神明奉仕責任者も、初代の故加藤研一講長、二代目の故小川清美講長、三代目の小川流留孔講長、そして現在四代目の小川清忠初代教會長と引き継がれてきました。また、役員総代の皆様を始め御神縁を戴いた多くの方々によつて、函館の「だいきくさま」の御神光が護り継がれてまいりました。今後とも、この「幸福との縁を結ぶ」御神光の輪を大切に護り引き継いでいきたいと思ひます。そして此の度のこの節目の「奉祝大祭」を大神様を崇敬する皆様と共に御祝

いしたいと思ひます。

◇ ◇ ◇

古来より日本語の五十音の組み合わせの言葉には『言霊』(コトダマ)といつて不思議な力が宿っている

と信じられていました。それは、発した言葉どおりの結果を現す力があるとされ、現実の事象に影響を与える

「言霊」(コトダマ)といつて不思議な力が宿っている

と信じられていました。それは、発した言葉どおりの結果を現す力があるとされ、現実の事象に影響を与える

と信じられ、発した言葉の

良し悪しによつて吉事や凶事が起こるとされました。

そのため、神道での祝詞の奏上では絶対に誤読がないように注意されました。

日本語の言葉の中で最も美しい響きの言葉の一つに『ありがとう』という言葉

を挙げる事ができます。

この言葉は、日本人が日常生活の中でごく普通に使っている「感謝」をあらわす言葉です。実は、この言葉神道に由来しています。この「ありがとう」という言葉の語源を調べると、「有難し」(ありがたし)から「有難く」(ありがたく)となり「有難う」(ありがとう)となったと説明されています。「有難う」は文字通り、「有ること自体が難しい」ということで、「こんな良い事は世の中に有難い(滅多に無い)」という意味です。もともと神様の御神徳にお恵みに感謝する言葉として人々の祈りの中で「有難う御座います」と使われていたようです。人に対するお礼の言葉として使われるようになったのが室町時代のあたりからこのようです。

さてこの「有難う」は、文字通り「難」が「有る」から「有難う」「有難い」という意味です。ですから、良い時はいいのですが、悪い時、苦しい時もまた「与えられたこと」に感謝して受けて「有難う」ということになり「有難う」ということになり「有難い」に逢つたら、誰も恨まずそれに立ち向かい、反省、努力、そして克服して感謝し、そ

こに成長させて戴けます。だから「有難う御座います」ということになります。

人というものは、我がままなもので、毎日平穩無事に過ごしていると、つい何の御利益も戴いていないような錯覚を起こして、お祈りの心も、感謝の念も薄らぎがちになるものです。しかし、よく考えてみますと、この「無難」こそ、我々の家庭に於いても、又、社会に於いても「有難いこと」なのであります。

災難に遭遇したり、何かが起こった時、初めて平穩無事ほど、有難いものだと身にしみて思ひます。そして、人は決して一人では生きることが出来、生活すること出来ぬものだと思ひます。

私たちは、神様ご先祖様そして社会の人々、この数え切れないほどの絆に支えられて、今を生かされています。そして、そういう絆に素直に感謝し、心から「有難う御座います」と言えるその心に神様が宿ります。

御親大神様「だいきくさま」との「きずな」を戴いている私たちは、その有難い「御神縁」と「御心」に感謝いたしましょう。

御教歌

出雲大社第八十代宮司
千家 尊福公

蔵町に
つむへき秋の
八束穂も
た、一握の
なへにこそあれ

【歌のこころ】
私達は何事をするにつけても、その結果が良いものであるように願わぬ人はありません。そのために結果の良さだけを求める事をいそいで、意に添わぬ事だといって、その手段を自分勝手に運んでしまつたりして、知らず知らずうちに、心に弛みが出来て、心に隙間をつくり思わぬ不幸な結果を自分の手でもつて作つてしまいがちであります。またその事によつて他の人達に大きな迷惑を与える事になりがちであります。

本当に良い結果を生む事は、自分のためばかりでなく、周囲の多くの人々からも喜ばれる事であり、その喜びの大きさをよりひろげるために、どんな些細な事でも投げやりにせず、自分に与えられた事を全うする努力を日毎に積んでゆきたいものです。

◎出雲大社の祈りの言葉【神語】

さきみたまくしみたまもりたまいさきはえたまえ
幸魂奇魂守給ひ幸へ給へ

この「神語」は、出雲大社第八十代宮司・出雲大社教初代管長千家尊福公が明治時代に、出雲大社の御祭神「だいこくさま」を信仰する人々のため宮司家の秘伝をおさとしになつたものであります。尊福公は、著書『神語』の冒頭で、「この詞は天照大御神第二の御子天穂日命の伝え給えし神

例 祭

定例の年間祭事

- ◎元旦祭（新年祈念祭） 1月1日 午前11時
- ◎節分祭（厄祓・星祭） 節分の日 午後2時
- ◎春季祖霊社冥福祭 春分の日 午後7時
- ◎春季例大祭前夜祭 大祭前日土曜 午後6時
- ◎春季例大祭・祖霊社例祭 5月第2日曜 午後2時
- ◎夏越大祓 6月30日 午後7時
- ◎秋季祖霊社冥福祭 秋分の日 午後7時
- ◎秋季例大祭前夜祭 大祭前日土曜 午後6時
- ◎秋季例大祭・祖霊社例祭 10月第2日曜 午後2時
- ◎年越大祓・除夜祭 12月31日 午後10時
- ◎月始祭・祖霊社祭 毎月1日 午前11時
- ◎稻荷神社祭 毎月10日 午前8時
- ◎月次祭・祖霊社祭 毎月15日 午前11時
- ◎龍蛇神社祭 毎月16日 午前8時
- ◎日供祭 毎日 午前8時

祖 霊 社

◎祖霊祭

出雲大社の御祭神、
大国主大神の別の御名に、
「幽冥主宰大神」という
尊称があります。

幽冥とは幽事の世界、つまり霊魂の世界のことです。私たちは誰もが先祖のおかげで命を戴き、今日を生きているのですから、この数限りない先祖・縁者の御霊、さらには幽冥稚児（俗にいう水子）の霊を祀るのは、私たちの当然の義務でしょう。

仏教では、普通の人は一定の年数で、「弔い上げ」といい、魂は十万億土の彼方へ行くとし、法要はしなくなりません。が、本来日本人の考えでは、死後の霊魂は、子孫が住む近くの草葉の陰や山などに留まり、子孫たちの生きざまを見つめている、と考えました。そして魂は子孫の魂に働きかけ、甦る、とされました。このご先祖たちの霊魂を神として祀り、より高い神の位に昇つて戴き、より子孫を見守る霊威を高め、蘇生して戴くための祈りが、

祖霊祭なのです。

出雲大社御本社では、これを「祖霊社大祭」として春分・秋分の日には厳かなお祀りが執り行われています。これに準じ、函館教會でも、お祀りを希望された多くの方々のご先祖の御霊を祀り、**霊威の蘇生**を願うご奉仕しています。

◎一般祈禱

- 家内安全 ○商売繁昌
- 交通安全 ○身体健全
- 厄除祈願 ○良縁祈願
- 進学成就 ○就職成就
- 海上安全 ○大漁満足
- 子宝祈願 ○工事安全
- 病氣平癒 ○諸願成就
- 出雲大社八方除地鎮祭、上棟祭、新宅清祓、店舗開店清祓、結婚式等出張祭典
- その他諸事の御祈禱も、随時受付けております。

◎特殊祈禱

障り除け、悪霊退散、乳幼児虫封じ等の特殊祈禱について、ご相談に応じて随時受付けております。

◎通信祈禱

遠隔地にお住まいの方々のために、諸祈願通信祈禱も随時受付けております。

◎お参りの作法

神前に向かい、身を正して心を鎮めます。

- 一、一拝（深いおじぎをします）
- 二、祈念（両手を合わせて頭を下げ、神様への感謝とともに、自分の願いを念じます）
- 三、二拝（二回深いおじぎをします）
- 四、四拍手（両手を胸高にして、四度拍ちます）
- 五、一拝（深いおじぎをします）
- 六、神語を三回唱えます

（胸高に両手を合わせ、深く頭を下げ、心の底から一心に唱えましょう）
【神語】神様から御霊力を戴くことは
幸魂奇魂守給ひ幸へ給へ
（さきみたま、くしみたま、まもりたまい、さきはえたまえ）

- 七、二拝（二回深いおじぎをします）
- 八、四拍手（両手を胸高にして、四度拍ちます）
- 九、一拝（深いおじぎをします）

◎出雲大社の御神札をお

祀り致しまし
しより

出雲大社で授布している御神札を「**出雲大社御玉串**」と申します。この御神札には親なる神、大国主大神様の御神霊がお鎮まりしています。大神様の御神威を拝礼祈念する「御霊」で朝夕に敬拝することによって、大神様の御守護を戴くことが出来るのです。

また、御神札を戴く敬拝の心は、人間性の向上、家庭の幸福、社会の幸栄をむすぶ「縁」となるのです。
※類似の御神札にご注意！

◎本紙に関する事、その他ご不明な点がございましたら、お気軽に左記宛てお問い合わせ下さい。

出雲大社 函館教會
函館市高松町三二七―三
〇一三八―五七―四六七七